

在マラウイ共和国日本国大使
特命全権大使 寒川 富士夫殿

公益社団法人 日本国際民間協力会
理事長 小野 了代 (公印略)

日本 N G O 連携無償資金協力事業 完了報告書

平成 23 年 2 月 18 日付日本 N G O 連携無償資金協力贈与契約に基づく「循環型農業と衛生改善による包括的な環境保全型村落開発事業」が、平成 23 年 8 月 17 日をもって完了いたしましたので、関係書類を添え、下記のとおり報告いたします。

記

1. 事業の実施期間： 平成 23 年 2 月 18 日 ～ 平成 23 年 8 月 17 日

2. 事業の実施成果（要約）：

ア. 申請書に記載した期待する成果とその達成度

(1) 各活動の成果と裨益者数

1) 直接裨益者に関する事項

本事業は、ドーワ県ナンブーマ地区の 661 世帯（3085 人）を対象として以下の活動を行った。

① 学校及び住民組織の立ち上げ

本事業では、住民組織の立ち上げとして、「ウォーターポイントガーデン（以下、WPG という）委員会(合計 230 名)」や「井戸委員会(30 名)」、「ローカルシードバンク委員会（32 名）」の立ち上げを行った他、すでに実在する小学校および中学校の学校委員会との学校菜園、エコサントイレ及び井戸建設について連携構築を図った。WPG は 29 ヶ所設立し、後述する③の循環型農業等の技術移転の場として活用された。

② 学校菜園の設置と運営

事業対象地のチノンバル中学校において学校菜園を設定し運営を開始した。野菜種子（トマト、アブラナ、マスタード、玉ねぎ）、果樹苗（マンゴー、パパイヤ、オレンジ）を自己資金にて配布し、学校委員会のメンバー（教員・保護者など 4 名～13 名）が学校菜園にて栽培を行った。また、後述する③の循環型農業等の技術移転としてエコサン肥料を利用した果樹苗の利用栽培を行った。

③ 循環型農業等の技術移転

事業開始直後にンコタコタ県マレンガチャンジ地区で行った村外研修に事業対象地区の 56 名が参加し、循環型農業等の先行事例の視察と地元農家との交流を行った。村落研修後には、参加者による報告会が実施され、各村落で循環型農業の先行事例について情報共有がなされ、その導入基盤が構築された。その後 29 ヶ所の WPG を運営支援し、野菜種子（トマト、マスタ

ード、アブラナ）・有用樹木種子（モリンガ・ジェトロファ）、果実苗木（マンゴー・パパイヤ、オレンジ）、忌避植物（ニーム）を自己資金にて配布した。配布した有用樹木および果樹の総数は 60,999 本に及び、申請書に記載した成果を達成することができた。栽培段階では、当会の前の事業対象地であるンコタコタ県ムワザマ地区から購入したエコサン肥料の施肥に関する講習会、自生しているテフロジアという忌避植物を利用した害虫対策の講習会を開催した。（裨益者数：WPG 委員会メンバーを含めて 273 名）また、有用樹の植林及び活用活性化のため、モリンガを用いた調理講習会を実施し、モリンガの利用法や効果の他、モリンガパウダーや石鹼など収入創出となる製品についての説明を行いモリンガの栽培促進及び地域緑化に繋がった。

8 ヶ村においてローカルシードバンクを建設し（裨益者数 869 名）、いぶし型穀物貯蔵庫を 1 基建設した（裨益者数 197 名）。いぶし型穀物貯蔵庫には改良かまどを設置した。更にエコサン肥料（尿）を使ったメイズの比較栽培、ピーナッツの枯葉を利用したコンポスト作成講習会なども実施し、循環型農業の基盤を構築した。

④ 学校を中心とした井戸やエコサントイレ建設と講習会

衛生改善のモデルとなるエコサントイレを当初予定では 41 基としていたが、最終的に中学校の尿トイレ 5 基を含めて 66 基建設した（裨益者数：209 名※内訳：教員 9 名、学生 200 名、世帯用トイレ 61 基×平均世帯員数 5 名＝305 名）。また、村落内でのエコサントイレ建設に際し、エコサントイレビルダー（10 名）も育成した。

井戸建設については、3 基の井戸建設（うち 1 基は中学校）と小学校にあった 2 基の井戸修繕）、を通して村民や学校関係者の育成を図った（裨益者数：1628 名 ※内訳：小学校 1400 名、小学校教員 19 名、中学校 200 名、中学校教員 9 名、Mondwe 村 112 名、Ndzidzi1 村 197 名）。

また、エコサントイレや井戸の使用法、井戸の修理方法と公衆衛生についての講習会を実施し、エコサントイレと井戸の建設により村落内の衛生改善と衛生知識の啓蒙を行った。エコサントイレについては、WPG 運営を通してエコサン肥料や尿の使用法に関する講習会を実施し、化学肥料に頼らない有機肥料使用による農業技術の移転を行った。

2) 間接裨益者に関する事項

フェーズ 1 では、学校環境改善としてエコサントイレ 5 基の建設、井戸 1 基の建設及び 2 基（小学校と共用）の修繕を行った。エコサントイレ建設により女学生がトイレを我慢せずに授業を受けられ学業に専念できるほか、井戸建設や修繕を通して安全な水が確保されたことにより水に起因する感染症が予防でき、安心して学校に通い続けることができるなど、エコサントイレ建設や井戸建設・修繕の体験を通して学校環境改善の基盤を構築することができた。事業対象地区外の一部の中学校生徒保護者からは、衛生改善に寄与し、農業に使うための尿が採取しやすいエコサントイレ建設を望む声が上がっている。

（2）国際協力における重点課題への対応

1) 【目標 1】極度の貧困と飢餓の撲滅

フェーズ 1 では、将来的な食糧増産につながる 29 ヶ所の WPG 立ち上げや運営を始め、エコサン肥料を含む有機肥料を使った循環型農法、農薬に頼らずとも害虫対策が可能なニーム植林やテフロジアの導入などを行った。また、フェーズ 2 に実施予定のヒマワリを利用

した食用油生産に向けて、ヒマワリの栽培や種子の搾油デモンストレーションを行い、農産加工品の技術移転に向けた活動を開始した。

2) 【目標3】ジェンダー平等推進と女性の地位向上

チンバル中学校において女性用の尿トイレを2基建設した。尿トイレ建設後に行った女子生徒に対する聞き取り調査の結果、従来のトイレでは、暗闇を恐がりトイレを我慢する女子生徒がいたほか、学校に着替えるスペースがないため生理中は学校を欠席する女子生徒が多くいた。しかし、従来のトイレよりも光が差し込みやすく内部が明るく広い尿トイレが建設されたことにより、女トイレを我慢する必要や生理を理由に学校を欠席する必要がなくなり、将来的には社会的な教育レベル向上に繋げるための社会経済基盤を改善した。またフェーズ1で建設したいぶし型穀物貯蔵庫をかまど製作におけるモデルとし、フェーズ2以降で女性によるかまど製作に繋げていく予定である。さらにフェーズ1で栽培したモリンガやヒマワリを利用した製品製作をフェーズ2より開始し、マーケティング委員会等を結成し収入創出につなげていく予定である。

3) 【目標7】持続可能性の確保

モリンガやジェトロファ等の有用樹木の植林、モリンガを利用した調理講習会を通して植林を通じた地域緑化を促進した他、改良かまどを設置したいぶし型穀物貯蔵庫の建設を通して薪確保のための森林伐採防止に寄与した。

また、事業対象地域では、1基のトイレを5～6世帯で共有するか近くの雑木林でトイレを済ませるような環境が多く残っている。そのため、雨季になると汚水が丸井戸やダンボ（沼地）に流れ込み、安全な飲み水の確保が困難となっていた。フェーズ1では、66基のエコサントイレを17ヶ村内に建設し、村落内の衛生改善に寄与した。更に、3基の井戸建設と、2基の井戸修繕により、安全な水を供給することができた。

4) マラウイ成長・開発戦略への対応

1、農業・食料安全保障

井戸の余り水を利用したWPGの導入、作付種子保存のためのシードバンク、滋養に富むモリンガと使った栄養改善など農業・食糧安全保障に寄与した。

2、灌漑整備と水資源の開発

井戸建設・修繕を通して水資源の開発や井戸の余り水を利用したWPG運営による灌漑整備を行い灌漑整備と水資源の開発に寄与した。

5、包括的な村落開発

有用樹木の植林や有用樹木と利用した調理講習会や栄養改善、エコサントイレ建設を通じた衛生改善やエコサン肥料・尿を使用した循環型農業の技術移転、井戸建設を通じた安全な水の確保と余り水を利用したWPG運営など、持続的な包括的村落開発のモデル構築に向けて基盤整備を行った。

イ. プロジェクトの自己評価

【妥当性】

事業対象地域であるドーワ県はタバコ生産に強く依存した農業地域であるため、2011年度のタバコ価格暴落による売上高の大幅な減少は、農業・食料安全保障や包括的な村落開発の妨げとなっている。本事業では、食料増産と収入創出にむけて井戸の余り水やダンボ（沼地）を利用したWPGを29ヶ所に導入し年間を通して作物栽培を行うことで、タバコ生

産に依存しない農業体質に改善するための基盤づくりに寄与した。

【有効性】

フェーズ 1 では、WPG 運営やエコサン肥料・尿を使用した有機農業、有用樹木の植林や活用を通して循環型農業の技術移転やエコサントイレ・井戸の建設を通じた衛生改善を行う事で包括的な環境保全型村落開発の基盤を構築することができた。農業分野では、エコサン肥料を用いた比較栽培を実施し、土壌改善の効果を村民に実感してもらうことができ、食料増産に繋がる循環型農法の技術移転に向けて 3 年計画の 1 年目を順調に開始することができた。一方、衛生分野では、66 基のエコサントイレ建設や 3 基の新規井戸と 2 基の井戸修繕を通して村落内の衛生改善と安全な水の確保に貢献した。

【効率性】

循環型農業の技術移転のため先行事例であるンコタコタ県マレンガチャンジ地区への村外研修実施、農業専門家派遣による技術指導、行政の農業普及員経験を持つ農業スタッフの起用等を通して循環型農業の基盤構築に寄与した。また、衛生改善には、エコサントイレ建設に際してエコサントイレを設計した建築家やンコタコタ県マレンガチャンジ地区からエコサンビルダーを講師として招き、専門的な建設技術の移転に寄与するなど、過去の事業のリソースを有効に活用した。

【インパクト】

エコサントイレ 66 基の建設を通して、これまでトイレを持つことができなかった貧困村民に対して衛生改善が可能となった他、雑木林などでトイレを済ませていた環境が改善され、雨季に汚水が村落内にある丸井戸やダンボ（沼地）に流れ込み水に起因する感染症を防ぐことに貢献した。また、3 基の井戸建設と 2 基の井戸修繕後、事業対象地域内の農民以外にも、事業対象地域周辺に住む農民が井戸を利用するなど、直接的及び間接的に安全な水の供給を行う事ができた。

【自立発展性】

WPG 運営の一部では、得た収益を使い自主的に栽培面積や作物の拡大を図り、より多くの収益を上げる所が出てきており、持続した自立発展の基盤が構築できた。また、事業対象地域を統括する地区長（GVH と言う）や村長が積極的に村落内のエコサントイレ建設を村民に訴える他、各村落内に存在する村内保健委員会メンバーが率先してトイレ使用後の手洗い実施や村落内の衛生的な環境維持に動くなど、村落内で自主的な衛生改善活動が行われ始めている。WPG 運営やエコサントイレ建設は、あくまでも村民の自主性に重点を置いていることから、持続的な自立発展に繋がる基盤が構築できた。加えて、当会スタッフや農業普及員・保健調査員が定期的にモニタリングを行い指導しているため、将来的な自立発展性は高いと言える。

ウ. 今後の方針

フェーズ 2 では、循環型農業と衛生改善による包括的な村落開発モデルの構築に向けて、村落内で本格的にエコサントイレや井戸を建設し、事業地内の衛生改善を進める。また、蚊帳配布や蚊帳の適切な利用方法の指導、モニタリングを通じて、感染症（マラリア）対策を開始する。

循環型農業では、エコサントイレからエコサン肥料を採取して利用するほか、コンポストを活用した有機農業の普及拡大を行う。またフェーズ 1 に収穫したローカルシードによ

る自立的な農業運営（ローカルシードバンク）を目指す。

さらに事業最終年となるフェーズ 3 を見据えて、WPG 運営やフェーズ 1 に植林の有用樹を利用した製品加工の技術移転などを行い、収入創出活動を開始する。

3. 日本 N G O 連携無償資金精算額：149,513.74 米ドル
(契約額（供与限度額）より 69,363.26 米ドルの減)
4. 会計報告（事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書オリジナル）：
別紙のとおり
5. 外部監査報告書提出予定日：本報告書に添付

【添付書類】

- ① 日本 N G O 連携無償資金収支表（様式 4 - a）
- ② 日本 N G O 連携無償資金使用明細書（様式 3 - a）
- ③ 経費支払証明（様式 3 - b）
- ④ 事業の成果に関する詳細報告
- ⑤ 銀行残高証明（または通帳の残高欄写し）
- ⑥ 両替表および両替証明書
- ⑦ 活動内容、事業の成果がわかる写真
- ⑧ 外部監査報告書

以上

本報告書は、2011 年 2 月 18 日から 2011 年 8 月 17 日までの期間に実施した活動についての詳細報告を行う。

1. 事業対象地域

本事業は、ドーワ県ナンブーマ地区における 3GVH（Group Village Head）、26 ヶ村、661 世帯を対象に実施している。

表 1. ナンブーマ地区事業対象地域の世帯・人口分布

GVH※	村名	世帯数	人口
Katontha1	Katontha1	31	161
	Kalusa	4	20
	Bwazi	18	87
	Nkotamo	43	199
	Simulemba	40	189
	Mondwe	28	112
	Masuwiti	12	44
	Kachocho	12	57
Katontha2	Katontha2	28	124
	Ngwata	25	103
	Kapondasenye	12	57
	Mwalukira	15	75
	Chadzunda	6	22
	Msiyana	6	28
	Chitete	6	30
Chimbalu	Chimbalu	65	302
	Chinyama	22	116
	Ndzidzi1	45	197
	Matapila	34	176
	Moyonsana	30	152
	Kakoma	20	95
	Mbuta	38	158
	Kaundama	3	27
	Emanuel	25	130
	Katipwa	33	167
	Tizwire	60	259
合計		26	661
		661	3087

※当事業では、カエンベ市 (TA Kayembe) にある 133GVH (Group village head)のうち 3GVH を事業支援対

象としており、各 GVH には長となる GVH (Group village headman) が一人存在する。また、GVH の下には、各村 (Village) の村長 (Village headman) が存在する。以下、報告書の裨益対象グループに記載される GVH とは、Group Village Headman を示す。

2. 活動内容

以下に本事業において実施した活動のリストを示す。なお、リスト中、番号の右側に付けた※印は中間報告書にて既に報告済みであることを示す。

① 学校及び現地住民側の事業管理組織の立ち上げ

【成果】

- ・ 29ヶ所のウォーターポイントガーデン（以下、WPG）の設立
- ・ WPG 管理委員会の立ち上げ、運用方針の決定
- ・ 学校プログラム（学校菜園、エコサントイレ及び井戸建設）の実施方針の決定
- ・ 井戸委員会の立ち上げ、運用方針の決定
- ・ シードバンク委員会の立ち上げ、運用方針の決定

【活動】

- 1※. 2011 年 2 月 18 日：WPG 立ち上げのための委員会選定に関するミーティング
（参加者数 129 名）
- 2※. 2011 年 3 月 17 日：学校委員会とのミーティング（小学校）（参加者数 30 名）
- 3※. 2011 年 3 月 25 日：学校委員会とのミーティング（中学校）（参加者数 13 名）
4. 2011 年 7 月 4 日：井戸委員会の立ち上げ及び運用方針に関するミーティング
（参加者数 131 名）
5. 2011 年 7 月 5 日：学校委員会との井戸建設・修繕に関するミーティング
（参加者数 43 名）
6. 2011 年 7 月 14 日：シードバンク委員会の立ち上げと役員選定（参加者数 9 名）
7. 2011 年 7 月 29 日：シードバンク委員会との運営方針に関するミーティング
（参加者数 34 名）

② 学校の菜園設置と運営

【成果】

- ・ チノンバール中学校の学校菜園の場所・規模・開始時期・参加者の決定
- ・ チノンバール中学校の学校菜園での野菜苗床作成と種子播種
- ・ チノンバール中学校裏庭での果実苗植林

【活動】

- 1※. 2011 年 3 月 24 日：学校菜園の立ち上げに向けたミーティング（小学校）（参加者数 30 名）
- 2※. 2011 年 3 月 30 日：学校菜園の立ち上げに向けたミーティング（中学校）（参加者数 13 名）
3. 2011 年 4 月 29 日：学校菜園での野菜種子配布及び播種と苗床作成（中学校）
（参加者数 4 名）
4. 2011 年 5 月 20 日：学校菜園での野菜苗移植（中学校）（参加者数 4 名）
5. 2011 年 7 月 12 日：学校菜園運営についてのミーティング（中学校）（参加者数 13 名）
6. 2011 年 7 月 27 日：学校菜園での野菜種子配布及び播種と苗床作成 - 2 回目（中学校）
（参加者数 8 名）
7. 2011 年 8 月 11 日：チンバール中学校での果実苗植林（参加者数 13 名）

③ 循環型農業等の技術移転

【成果】

- ・29ヶ所のWPGの運営：：野菜（トマト、マスタード、アブラナ）有用樹木（モリンガ・フェトロファ・ヒマワリ・ニーム）果樹苗（マンゴー、パパイヤ、オレンジ）の配布、エコサン肥料の利用、移植、テフロジアによる害虫対策等の講習会
- ・29ヶ所中17ヶ所のWPGにおける乾季栽培の実施
- ・有機肥料の普及：尿を使ったメイズの比較栽培やコンポスト作成講習会の実施
- ・いぶし型穀物貯蔵庫1基の建設
- ・ローカルシードバンク1基の建設
- ・モリンガを利用した調理講習会実施による栄養改善

【活動】

- 1※. 2011年2月21日～28日：WPG運営（1）：種子・苗木配布及び苗床作成と播種（参加者数273名）
- 2※. 2011年2月21日～3月1日：WPG運営（2）：果実苗の配布と移植（参加者数254名）
- 3※. 2011年3月7日～24日：WPG運営（3）：野菜苗の移植（参加者数269名）
- 4※. 2011年3月2日～24日：WPG運営（4）：テフロジア配布（29ヶ所）
- 5※. 2011年3月1日～4月15日：WPG運営（5）：定期モニタリング（29ヶ所）
- 6※. 2011年2月22日：ンコタコタ県マレンガチャンジ地区への村外研修（参加者数56名）
- 7※. 2011年2月24～25日：村外研修後の情報共有ミーティング（参加者数105名）
- 8※. 2011年3月1日～24日：有用樹木の種子・苗木配布と播種（29ヶ所）
- 9※. 2011年3月15日：第1回 有用樹木モニタリング（29ヶ所）
- 10※2011年4月5日：第2回 有用樹木モニタリング（29ヶ所）
11. 2011年5月6日～8月16日：尿を使用したメイズの比較栽培（参加者数3名）
12. 2011年5月11日～30日：コンポスト作成講習会（17ヶ所）
13. 2011年5月13日～8月10日：WPG運営（6）：乾季栽培に向けたWPG委員会ミーティング（参加者数127名）
14. 2011年6月1日～8月16日：WPG運営（7）：乾季栽培用野菜苗床作成と播種（参加者数130名）
15. 2011年6月20日～8月15日：WPG運営（8）：乾季栽培定期モニタリング（17ヶ所）
16. 2011年7月18日～22日：いぶし型穀物貯蔵庫建設（1ヶ所）
17. 2011年7月25日：シードバンク先例見学講習会（参加者数18名）
18. 2011年7月27日～8月17日：ローカルシードバンクの建設（1ヶ所）
19. 2011年7月8日：ヒマワリ油搾油デモンストレーション（参加者数49名）
20. 2011年8月2日～8月12日：WPG運営（9）：収入出の記録に関する講習会（参加者数44名）
21. 2011年8月15日：モリンガを利用した調理講習会（参加者数63名）

④ 学校を中心とした井戸やエコサントイレ建設と講習会の実施

【成果】

- ・10名のエコサントイレビルダーの育成

- ・ 2 基の井戸修繕と 3 基の井戸建設
- ・ 66 基のエコサントイレ建設（チノンバール中学校の尿専用トイレ 5 基を含む）

【活動】

- 1 ※. 2011 年 2 月 23 日～24 日：エコサントイレ建設（導入編）（参加者数 139 名）
- 2 ※. 2011 年 4 月 5 日～6 日：エコサントイレ建設（トレーニング前ミーティング）
（参加者数 41 名）
3. 2011 年 4 月 13 日～5 月 14 日：エコサントイレ建設（ビルダー講習会）（参加者数 10 名）
4. 2011 年 5 月 3 日～8 月 17 日：エコサントイレ建設（66 ヶ所）
5. 2011 年 4 月 29 日～7 月 25 日：エコサントイレと使用法に関する講習会
（参加者数 533 名）
6. 2011 年 6 月 23 日～8 月 17 日：チンバール中学校においての尿トイレ建設（1 ヶ所）
7. 2011 年 7 月 4 日～5 日：井戸修繕（2 ヶ所）
8. 2011 年 7 月 7 日～8 月 17 日：井戸建設（3 ヶ所）
9. 2011 年 7 月 27 日～8 月 12 日：水利用などの一般公衆衛生に関する講習会
（参加者数 111 名）
10. 2011 年 8 月 1 日～16 日：井戸使用と管理に関する講習会（参加者数 45 名）

添付書類⑥ 活動写真報告書

「循環型農業と衛生改善による包括的な環境保全型村落開発事業（フェーズ1）」

この報告書では、添付書類①事業詳細報告書にて記載した活動の写真報告を行う。活動番号は、同じく添付書類①にて記載している活動番号に基づく。

活動番号：①－4

活動名：井戸委員会の立ち上げ及び運用方針の決定に関するミーティング



集まった Mondwe の村長、村民に対して井戸委員会の立ち上げの目的と必要性を説明する当会スタッフ

活動番号：①－5

活動名：学校委員会との井戸建設・修繕に関するミーティング



井戸建設・修繕に関する方針決定に際しては、コミュニティ開発普及員（右）の指導の下、話し合いが行われた。

活動番号：①－6

活動名：シードバンク委員会の立ち上げと役員選定



シードバンク委員会の立ち上げに関して目的と効果を説明する当会スタッフ

活動番号：①－7

活動名：シードバンク委員会との運用方針に関するミーティング



コミュニティ開発普及員の指導の下、シードバンク委員会の運営方針について話し合いを行った。

活動番号：②－3

活動名：学校菜園での野菜種子配布及び播種と苗床作成



当会スタッフ（奥）から苗床作成について説明を受ける学校委員会メンバー（手前）



苗床に野菜種子を撒く当会スタッフ岡田。

活動番号：②-4

活動名：学校菜園での野菜苗移植



移植する圃場を耕す学校委員会メンバー

活動番号：②-5

活動名：学校菜園運営についてのミーティング



学校委員会内の意見不一致を解消するため、水やり当番等の運営に関して話し合いを行った。

活動番号：②-6

活動名：学校菜園での野菜種子配布及び播種と苗床作成-2回目



活動番号：②-7

活動名：チンバール中学校での果実苗植林



エコサン肥料を撒く学校委員会メンバー



ヤギ対策のために柵づくりを指導する当会スタッフ
村上



移植したマンゴー苗に水を与える学校委員会メンバ
ー



学校閉鎖中でも水やりが自然に行えるようペットボ
トルを利用したドリップ式の水やりを取り入れた。

活動番号：③－5

活動名：WPG 運営 (5)：定期モニタリング



エコサン肥料を散布した土壌で育ったマスタード

無施肥の土壌で育ったマスタード



エコサン肥料を散布した土壌で育ったパパイヤ。
幹が太く、つぼみを付けている。

無施肥の土壌で育ったパパイヤ。幹が細い。

活動番号：③－11

活動名：尿を使用したメイズの比較栽培



比較栽培用の圃場はエコサントイレのすぐ後ろに設置



比較栽培用に区画を整備する当会スタッフと村民



比較圃場のモニタリングを行う当会スタッフ村上



奥：尿を撒いた区画
手前：無施肥の区画

活動番号：③－12

活動名：コンポスト作成講習会



枯草を敷く当会スタッフと村民



約90センチほどに積まれたコンポストは泥で塗り固める

活動番号：③－13

活動名：WPG 運営（6）：乾季栽培に向けた WPG 委員会ミーティング



活動番号：③－14

活動名：WPG 運営（7）：乾季栽培用野菜苗床作成と播種



野菜苗を播種するWPG委員会メンバー

苗床にマッチングをするWPG委員会メンバー

活動番号：③－15

活動名：WPG 運営（8）：乾季栽培定期モニタリング



移植した後の野菜苗の状況を確認する当会スタッフ

苗の生育状況について聞き取り調査と状況に応じた指導を行う当会スタッフ

活動番号：③－20

活動名：WPG 運営（9）：収入出の記録に関する講習会



コミュニティ開発普及員の指導の下、支出と収入の記録方法についてWPG委員会が指導を受けた。

活動番号：③－16

活動名：いぶし型穀物貯蔵庫建設



建設現場風景

ドアを設置するビルダー

活動番号：③－17

活動名：シードバンク先例見学講習会



チンヤマ地区内のシードバンク委員会よりシードバンクの立ち上げや運営管理について説明を受ける

シードバンク倉庫内の見学

活動番号：③-18

活動名：ローカルシードバンクの建設



倉庫の土台作り



壁を建てていくビルダーたち



ローカルシードバンク完成

活動番号：③-19

活動名：ヒマワリ油搾油デモンストレーション



搾油機について説明を行う当会スタッフ



搾油機を使って搾油をする当会スタッフと農業普及員

活動番号：③－21

活動名：モリンガを利用した調理講習会



モリンガパウダーについて説明をする当会スタッフ



モリンガパウダーをお粥に混ぜる村民



調理実習講習会風景



モリンガを使った料理

上左：モリンガパウダーとジャガイモの天ぷら

上中央～右：モリンガの房とキャッサバ、ヤギ肉を煮た付け合せ

中央：モリンガパウダーを混ぜたシマ

下左：モリンガの葉とトマト、タマネギの付け合せ

下右：モリンガパウダー、ピーナッツパウダーを使ったメイズのお粥

活動番号：④－3

活動名：エコサントイレ建設（ビルダー講習会）



講師（右奥）指導の下、スラブを作成するビルダーたち



講習会中は、10 人のビルダーが入れ替わりで各工程の作業を学んだ



エコサントイレ内部足置きを作成するビルダー



講習会最終日、エコサントイレ第 1 号の前で

活動番号：④－4

活動名：エコサントイレ建設



エコサントイレ建設中は当会スタッフが監督を行い、欠陥トイレが建設されないようモニタリングを行っている。



ビルダーと建設工程について打ち合わせをする当会スタッフ

活動番号：④－5

活動名：エコサントイレと使用法に関する講習会



エコサントイレについて説明をする当会スタッフ
とトイレ内部を見学する村民



手洗いについて説明をする保健調査員

活動番号：④－6

活動名：チンバール中学校においての尿トイレ建設



教師用トイレのスラブ建設について指導をする江
崎建築専門家（右奥：帽子をかぶった男性）



女子生徒用の尿トイレを建設するビルダーたち

活動番号：④－7

活動名：井戸修繕



井戸の故障具合を確かめる井戸業者



学校関係者と修繕に関して話し合う

活動番号：④－8

活動名：井戸建設



手掘りで掘削する様子を学ぶ村民



井戸建設過程について村民に説明をする井戸建設業者

活動番号：④－9

活動名：水利用などの一般公衆衛生に関する講習会



水感染について説明をする保健調査員



村内の衛生について指導をする保健調査員

活動番号：④－10

活動名：井戸使用と管理に関する講習会



井戸の部品の名前と役目についておさらいをする井戸委員会メンバー



井戸の部品と組み立て方を指導する講師（中央）

日本NGO連携無償事業資金収支表

団体名:公益社団法人 日本国際民間協力会(NICCO)
事業名(実施国):循環型農業と栄養改善による包括的な環境保全型村落開発事業(マラウイ共和国)
自 平成22年2月18日 至 平成22年8月17日

	連携無償	自己資金	証憑番号
【収入の部】			
総収入	218,877.00	35,782.38	
【支出の部】			
1. 現地事業実施経費	89,238.34	9,537.51	
(1)直接事業費	38,411.96	8,714.11	
(イ)資機材・施設・役務の調達費	15,253.28	0.00	
(1)井戸建設等	5,824.45	0.00	1～28
(2)循環型農業による栄養改善	1,139.82	0.00	29～40
(3)エコサントイレ建設等	8,289.01	0.00	41～159
(ロ)ワークショップ等開催費	718.74	0.00	
(1)会場借上費	483.23	0.00	160～165
(2)講師招聘料(講師日当・謝金、旅費)	221.42	0.00	166～175
(3)資料作成費(ワークショップ資料作成費、ワークショップ準備費)	14.09	0.00	176～178
(リ)専門家派遣費	22,439.94	8,714.11	
(a)日本人専門家派遣費等(4名)	12,409.84	8,714.11	179～207
(b)日本人専門家謝金	10,030.10	0.00	208～211
(2)事業管理費	49,110.37	823.40	
(イ)現地スタッフ人件費	6,915.77	763.12	
(1)プロジェクト・オフィサー(1名×6ヶ月)	2,962.16	329.09	212～223
(2)フィールド・オフィサー(1名×6ヶ月、1名×3ヶ月)	2,261.15	251.19	224～241
(3)運転手(1名×6ヶ月)	1,645.64	182.84	242～253
(4)警備員(1名×1ヶ月)	46.82	0.00	254
(ロ)現地事務所借料等(6ヶ月)	691.00	0.00	255
(リ)現地移動費	20,342.98	0.00	
(a)車両購入費・借料(車両借上、バス借上)	6,355.95	0.00	256～267
(b)車両維持費(燃料費、車両保険、車両修繕費、車両救助作業員賃金)	13,214.77	0.00	268～397
(c)現地出張費(プランタイヤ出張)	772.26	0.00	398～405
(二)会議費	0.00	0.00	
(ホ)通信費	3,132.52	0.00	
(a)固定回線使用料(固定電話、インターネット)	2,656.45	0.00	406～408
(b)携帯電話使用料	315.02	0.00	409
(c)銀行手数料(送金・両替手数料、口座維持・文書発行手数料等)	161.05	0.00	410～425
(ヘ)事業資料作成費	15.71	60.28	426～427
(ト)事務用品購入費等	1,132.38	0.00	
(a)事務用品購入費	293.10	0.00	428～442
(b)事務機器等購入費・借料(プリンタ関係、通信機器)	769.66	0.00	443～448
(c)事務用家具購入費・借料	69.62	0.00	449～450
(チ)本部スタッフ派遣費	16,880.01	0.00	
(a)派遣スタッフ旅費(1名)	4,259.77	0.00	451～453
(b)派遣スタッフ日当・宿泊費(2名)	10,122.82	0.00	454～469
(c)派遣スタッフその他渡航費(2名)	2,497.42	0.00	470～475
(3)情報収集費	0.00	0.00	
・情報収集費(新聞購入費)			
(4)その他安全対策費	1,716.01	0.00	476～482
2. 本部事業実施経費	50,260.32	702.58	
(1)本部事業管理費	48,339.72	702.58	
(イ)本部スタッフ人件費	45,871.87	0.00	
(1)現地駐在職員(2名)	31,523.11	0.00	483～506
(2)本部スタッフ(2名)	14,348.76	0.00	507～521
(ロ)会議費	16.23	0.00	522～523
(リ)通信費	1,901.04	0.00	
(a)電話等使用料	320.37	0.00	524～528
(b)郵便・輸送費	1,530.69	0.00	530～537
(c)銀行手数料	49.98	0.00	538
(二)事業資料作成費	475.17	0.00	539～541
(ホ)事務用品購入費	75.41	702.58	542～547
(2)その他安全対策費	0.00	0.00	
(3)一般管理費等	1,920.60	0.00	548
3. 外部会計監査費	10,293.34	0.00	
(1)外部監査実施経費			
(イ)現地外部監査実施経費(マラウイ側監査費用)	1,830.00	0.00	549
(ロ)本部外部監査実施経費(日本側外部監査)	8,463.34	0.00	550
4. 普通預金利息及び銀行間取引手数料			
利息(収入)	293.26		
銀行間取引手数料(支出)	15.00		
利子と銀行間取引手数料の差額(※1)	278.26		551～556
総支出	149,513.74	10,240.09	
残高	69,363.26	25,542.29	

※1:口座において発生する利子と口座を維持するための費用の差額